

# 鳥獣被害対策は地域ぐるみで!

野生鳥獣が田畑や森林などを荒らす鳥獣被害。本県における被害額は減少傾向にあるものの、依然として深刻な状況が続いています。今回は、その被害を防ぐための取り組みについてご紹介します。

## 知っておこう、鳥獣被害のこと

イノシシやシカなどの野生鳥獣による被害は、農作物が食べられる、木の樹皮が剥がされ幹が傷付けられるなどさまざまです。特に、出荷や伐採間近に被害を受けると、農家や森林所有者の経営意欲の低下を招き、金額以上に深刻な影響を及ぼします。

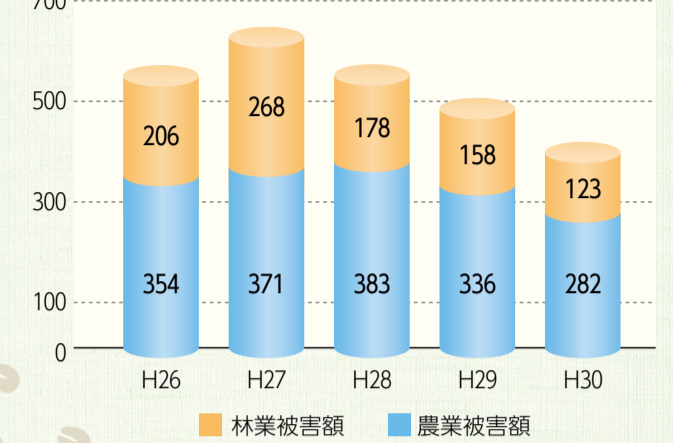
こうした被害は、山に住めなくなった野生鳥獣が、やむなく集落に下りてくることで発生しているというイメージがあるかもしれませんが、しかし実際は、高齢化などにより手入れの行き届かなくなったやぶを格好のすみかとした野生鳥獣が、畑の野菜や庭の果実など、栄養価の高いおいしい餌に引き寄せられることが大きな要因です。

鳥獣被害には、捕獲だけでなく侵入防止柵の設置(防護)ややぶの刈り払い(環境整備)を組み合わせた総合的な対策が必要です。それには、地域が一丸となって取り組むことが重要です。



イノシシに踏み荒らされた水田(上)とシカに樹皮が剥がされたヒノキ

栃木県の鳥獣被害金額の推移  
(百万円) (県森林整備課、経営技術課調べ)



## 被害防止に向けた県の取り組み

### ●地域リーダーの育成

地域ぐるみで対策を進めるためには、知識と技術を持ち地域の中心となるリーダーが必要不可欠。県では、鳥獣の生態や各種対策手法を学ぶ「獣害対策地域リーダー育成研修」を実施し、その育成を進めています。



防護柵の設置研修

### ●防護・環境整備

農地への侵入を防ぐ侵入防止柵や、樹木の皮剥ぎを防ぐネットの設置などの「防護」対策とともに、里山林の下草刈り払いなどの鳥獣を寄せ付けない「環境整備」に対し、市町と連携して支援を行っています。



皮剥ぎ防止ネットが張られた森林

### ●獣害対策アドバイザーの派遣

鳥獣被害を受けにくい地域づくりを進めるため、獣害対策の専門家である鳥獣管理士をアドバイザーとして派遣し、地域に適した効果的な対策方法のアドバイスを行っています。



集落の弱点を確認する集落点検

### ●捕獲

防護や環境整備の取り組みに加え、生息状況を調査し、市町とともに捕獲を推進しています。また、若者へ狩猟の魅力を伝えるPR講座や捕獲技術の実践講習会の開催など、狩猟者の確保・育成に取り組んでいます。



箱わなで捕獲されたイノシシ

## 獣害対策アドバイザーとともに、地域一丸となって被害防止に取り組んだ方にお話を伺いました

はねやくぼ 羽谷久保農地保全委員会(塩谷町) 会長 斎藤 國雄さん

### —対策前の被害状況を教えてください。

羽谷久保地域は20世帯ほどの集落ですが、全体で年間500万円ほどの被害が出ていました。中には、作物を育ててもすぐに食べられてしまうため、耕作を諦めた畑もありました。

### —どのような対策を行ったのですか?

まず、集落の弱点や獣の侵入経路を確認するため、見回りやカメラの設置を行いました。その後、アドバイザーの助言の下、学習会を開いて対策を考え、獣除けフェンスを設置することになりました。それからは、アドバイザーからフェンスの張り方や設置する場所を教わり、集落のみんなで協力して張っていきました。



総延長が約5.8キロに及ぶ獣除けフェンス

### —対策の効果はいかがでしたか?

対策を行ってからは野生動物の侵入もなくなり、被害はほとんどゼロになりました。荒れ地になっていた畑も耕し直すことができ、新たに作物を育てられるようになりました。

### —アドバイザーからはどのような助言があったのですか?

鳥獣の生態から設置後の管理まで考えた専門的な助言をいただきました。人間側の都合ではなく、フェンスの効果を考えてルートを選定することや、管理用通路をしっかりと整備した方が良いと教えられたときは、なるほどと思いました。定期的なメンテナンスや修理のたび、自己流でやっていたら大変なことになっていただろうと実感しています。



遊休地を再生した畑から収穫したヤツガシラ(里芋)を手にする斎藤さん

## —対策に取り組んだことで、被害防止以外にも効果があったようですが。

対策には、農家・非農家関係なく集落全体で取り組みましたし、定期的な見回りも持ち回りで行うようにしています。そのおかげで地域の連帯感が養われ、雰囲気も良くなったと感じています。



住民で協力して行うフェンスの修理

## —効果的な対策を進めるために大切なことは、どのようなことだと思いますか?



管理用通路も整備された山林内のフェンス

対策は、フェンスを一度張って終わりではなく、その後の管理が大切だという意識を持つことです。

また、個人個人が独自に対策を行うのではなく、地域全体の問題として、協力し合って対策を進めることがとても大切だと思います。

## 鳥獣被害を防ぐために

被害を防ぐには、住民一人ひとりの協力が不可欠。どんなことに気を付ければ良いのか、日常生活における心構えをご紹介します。

### 1 近づけさせない

やぶや茂みは格好のすみかや通り道になります。定期的に草を刈り、見通しを良くしておきましょう。



### 2 餌付けにならないことをしない

収穫しない果実や野菜、生ゴミなどを放置すると格好の餌になります。きちんと片付けましょう。



### 3 むやみに近づかない

鳥獣に近づくと、思わぬけがをする危険があります。遭遇した場合は、刺激せず静かに離れましょう。



### 4 地域で協力する

個人での対策には限界があります。地域で協力し合い環境整備や侵入防止に取り組みましょう。

